

# 185. 可分集合ノ一性質

稻垣 武 (北大)

集合  $E$  アルトキ  $E$  ノ部分集合カラナル單調整列族  $\mathcal{F} = \{F_\alpha\}$  が *Stationnaire* デアルトキ  $E$  ハ如何ナル性質ヲ有サネバナテナイカヲ考ヘ、ソレカラ得ラレル一、ニノ結果ヲ掲ゲテ見ヤウ。

性質1: 集合  $E$  ノ部分集合カラナル減少整列族  $\mathcal{F} = \{F_\alpha\} =$  於テ凡テノ  $\alpha =$  ツキ  $F_\alpha$  が  $F_{\alpha+1}$  ノ外苞 = 含マレザルトキ  $\mathcal{F}$  ハ可附番デアレ。

カナル性質ヲ有スル集合  $E$  ハヨク知ラレテキル如ク起リ、こむはくヒデアレ。性質1 = 對應シテ次ノ性質ガ考ヘラレル。

性質2: 集合  $E$  ノ部分集合カラナル増加整列族  $\mathcal{F} = \{F_\alpha\} =$  於テ凡テノ  $\alpha =$  ツキ  $F_{\alpha+1}$  が  $F_\alpha$  ノ外苞 = 含マレザルトキ  $\mathcal{F}$  ハ可附番デアレ。

カナル集合  $E =$  就テハ: *W. Sierpiński: sur l'équivalence de trois propriétés des ensembles abstraits. Fund. Math. Tome II. 1921. P. 179—188.*

= 於テ,  $\mathcal{S}$ -空間 = ツイテ論ジテアル、コノ証明ト殆ンド同様 = シテ  $\mathcal{V}$ -空間デ論ズルコトガ出來ル。即チ

定理1: 性質2ヲ有スル集合  $E$  ノ任意ノ部分集合ハ可分デアレ。及コノ逆ガ成立スル。

証明:  $E$  の或る非可附番部分集合  $M$  は可数ナラズトスル。

$M$  の要素ヲ次ノ如ク並べル。

$$p_1, p_2, \dots, p_\alpha, \dots, \alpha < \eta, \quad \eta \geq \aleph_1.$$

今  $q_\alpha = p_1$  トオク。  $1 \leq \xi < \alpha$  ナル  $\xi$  デ  $q_\xi$  が定義サレタトシテ  $q_\alpha$  ヲ次ノ如ク定義スル。

$$Q_\alpha = \sum_{\xi < \alpha} q_\xi \quad (\alpha < \aleph_1) \text{ トオク。}$$

$Q_\alpha$  は可附番デ且ツ  $M$  が可数ナラザル假定ヨリ

$$M - (Q_\alpha + Q'_\alpha) \neq \emptyset$$

今  $M - (Q_\alpha + Q'_\alpha) =$  含まレル要素ノ最初ノモノヲ  $q'_\alpha$  ト定メル、扱テ

$$F_\alpha = Q_\alpha \quad (\alpha < \aleph_1)$$

ト定義スレバ、明カニ

$$F_\alpha \subset F_{\alpha+1}, \quad F_{\alpha+1} - (F_\alpha + F'_\alpha) \ni q'_\alpha$$

コレハ性質 2 ナル假定ニ反ス。

次ニ  $E$  ノ任意ノ部分集合ハ可数デアルトキ、性質 2 ヲ満足セザルモノガアツタト假定スル、コレヲ  $\mathcal{F} = \{F_\alpha\}$

トスル。

$$F_{\alpha+1} - (F_\alpha + F'_\alpha) \ni q'_\alpha$$

トオケバ

$$F_\alpha \supseteq F_{\xi+1} \quad \xi < \alpha$$

$$F_\alpha \ni q'_\xi$$

$$(F_\alpha + F'_\alpha) \cdot q'_\alpha = 0$$

$\mathcal{F}_1, \mathcal{F}_2, \dots, \mathcal{F}_\alpha, \dots$  ( $\alpha < \mathfrak{N}$ )

トシ  $M = \{\mathcal{F}_\alpha\}$  を考へル、 $M$  が可分トザルコトヲ示サシ。

若シ  $M$  が可分トスレバ、 $M$  内 = 可附番部分集合

$N = \{\mathcal{F}_{\mu_n}\}$  アリテ、 $N + N' \supseteq M$  トナル。

扱  $\mu_1, \mu_2, \dots, \mu_n, \dots$  ( $\mu < \mathfrak{N}$ )

ナル高々第二級ノ順序数  $\mu$  が存在スル。

$$F_{\mu+1} \ni \mathcal{F}_\mu$$

$$\mathcal{F}_\mu \cdot (F_\mu + F'_\mu) = 0$$

$$\text{又 } F_\mu \ni \mathcal{F}_{\mu_n} \quad \therefore F_\mu \ni \{\mathcal{F}_{\mu_n}\}$$

$$\therefore F'_\mu \ni \{\mathcal{F}_{\mu_n}\}'$$

$$\therefore \mathcal{F}_\mu \cdot F'_\mu \ni \mathcal{F}_\mu \cdot \{\mathcal{F}_{\mu_n}\}' = 0$$

コレハ  $N + N' \supseteq M$  ナル假定 = 反ス。 Q.E.D.

性質1 又ハ性質2 が成立スレバ、“互 = 相素ナル開集合族ハ高々可附番デアル”コトハヨク知ラレテホルが又次ノ定理が成立スル。

定理2: 性質1, 又ハ性質2 が成立スレバ

性質3: 任意ノ部分集合 = 於テ、ソコデ互 = 相素デ且ツ内点ヲ有スル集合族ハ高々可附番デアル。

コノ証明ハ此処デハ略シテオク、カナル性質ヲ有スル集合ハ如何ナルモノナルカヲ調べヤシ。

定義: 集合  $E$  ノ任意ノ非可附番部分集合が自己 = 属スル集積点ヲ有スルトナ、 $E$  を超以こむばくヒト云フ。

定理3:  $\nabla$ -空間 = 於テ次ノ四ツノ性質ハ同値デアアル。

- (1) 集合  $E$  ノ任意ノ部分集合 = 於テ、ソコデ互 = 素デア内点ヲ有スル集合族ハ高々可附番デアアル。
- (2) 集合  $E$  ハ超  $\alpha$  コモ  $\beta$  クヒデアアル。
- (3) 集合  $E$  ノ部分集合カラナル減少整列族  $\mathcal{F} = \{F_\alpha\} =$  於テ凡テノ  $\alpha =$  ツキ  $F_\alpha - F_{\alpha+1}$  ガ  $E =$  於テ縁集合ナラザレバ  $\mathcal{F}$  ハ可附番デアアル。
- (4) 集合  $E$  ノ部分集合カラナル増加整列族  $\mathcal{F} = \{F_\alpha\} =$  於テ凡テノ  $\alpha =$  ツキ  $F_{\alpha+1} - F_\alpha$  ガ  $E =$  於テ縁集合ナラザレバ  $\mathcal{F}$  ハ可附番デアアル。

証明: (1)  $\rightarrow$  (2):  $E$  ハ超  $\alpha$  コモ  $\beta$  クヒナラズト假定スル。

従ツテ  $E$  ノ非可附番部分集合  $M$  アリテ集積点ヲ有セナイ。

故 =  $M$  ノ任意ノ点  $p =$  或  $\omega$  近傍  $\nabla(p)$  アリテ  $\nabla(p) \cdot M = p$  トナル。然レテ  $\nabla(p) \cdot M \wedge M =$  於テ内点ヲ有スル集合デアアル。従ツテカ  $\omega$  近傍族  $\{\nabla(p) \cdot M\}$  ヲ考フレバ、コレハ  $M$  デ互 = 素デア且ツ内点ヲ有シ、非可附番デアアル。コレハ (1) ナル假定 = 反スル。

(2)  $\rightarrow$  (3): 減少整列族  $F_1 \supset F_2 \supset \dots \supset F_\alpha \supset \dots$

ガ非可附番ナリトスル。  $F_\alpha - F_{\alpha+1}$  ハ  $E$  デ縁集合ナラザル故  $F_\alpha - F_{\alpha+1} \ni p_\alpha$  ナル点アリテ或  $\omega$  近傍  $\nabla_\alpha(p_\alpha)$  = 對シテハ  $F_\alpha \ni \nabla_\alpha(p_\alpha)$ ,  $F_{\alpha+1} \cdot \nabla_\alpha(p_\alpha) = \emptyset$

カ  $\omega$  ル点  $p$  ノ集合  $\{p_\alpha\}$  ヲ考フレバコレハ非可附番デア且

集積点ヲ有シナイ、故ニ(2)ナル假定ニ反ス。

(3)  $\rightarrow$  (4): 増加整列族  $F_1 \subset F_2 \subset \dots \subset F_\alpha \subset \dots$  デ

$F_{\alpha+1} - F_\alpha$  ハ  $E$  デ縁集合ナラザル故

$$CF_1 \supset CF_2 \supset \dots \supset CF_\alpha \supset \dots$$

且ツ  $CF_\alpha - CF_{\alpha+1}$  ハ  $E$  デ縁集合デナイ。

故ニ(3)ニヨリ  $\{CF_\alpha\}$  ハ高々可附番、従ツテ  $\{F_\alpha\}$  ハ高々可附番デアル。

(4)  $\rightarrow$  (1):  $E \ni M$  トシ  $M$  デ互ニ素デ且ツ内点ヲ有スル集合族デ非可附番ナルモノガアリトシ、コレヲ  $\{M_\alpha\}$  トスル。

$$\text{今 } F_\alpha = \sum_{\beta \leq \alpha} M_\beta \text{ トオケバ}$$

$$F_1 \subset F_2 \subset \dots \subset F_\alpha \subset \dots$$

$$\text{且ツ } F_{\alpha+1} - F_\alpha = M_{\alpha+1}$$

トナリ、 $M$  デ縁集合デナイ。然ルニ  $\{F_\alpha\}$  ハ非可附番、

コレハ(4)ナル假定ニ反ス。 Q. E. D.

次ニ近傍系 = Hausdorff ノ第二公理ヲ導入スル。

公理(B):  $U(x)$  及ビ  $V(x)$  ノ同一ノ点  $x$  ノニツノ近傍トスル、然ルトキハ  $x$  ノ近傍  $W(x) = \text{シテ } U(x) \cdot V(x) = \text{属スルモノガアル。}$

定理4: 性質3ヲ有スル集合ガ可分ナラザレバ凝集点ヲ有ス。

証明: 集合  $E$  ノ部分集合  $M$  ガ可分ナラズトシテ、 $M$  ガ凝集点ヲ有スルコトヲ示セバヨイ。

$M$  の凝集点ヲ有セズト假定スル、 $M$  の任意ノ一点  $P_1 =$   
 對シテハ適當ナル近傍  $V_1(P_1)$  アリテ  $M \cdot V_1(P_1)$  ハ高々可  
 附番デアル、一般ニ  $1 \leq \beta < \alpha$  ナル凡テ、 $\beta =$  對シテ  $P_\beta$ 。  
 $V_\beta(P_\beta)$  が定義サレタルトキ  $P_\alpha$ 、 $V_\alpha(P_\alpha)$  ヲ次ノ如  
 ク定メル。

$$M - \overline{\left( \sum_{\beta < \alpha} V_\beta(P_\beta) \right)} \quad (\alpha < \Omega)$$

ヲ考ヘルト、 $M$  ハ可分ナラザル假定ニヨリ空集合デナイ。  
 故ニソノ一点ヲ  $P_\alpha$  トスル、 $P_\alpha$  ハ  $\sum_{\beta < \alpha} V_\beta(P_\beta)$  ノ外点  
 ナル故適當ナル近傍  $W(P_\alpha)$  アリテ

$$W(P_\alpha) \cdot \left( \sum_{\beta < \alpha} V_\beta(P_\beta) \right) = 0$$

又  $P_\alpha$  ハ  $M$  ノ凝集点ナラザル故ニ近傍  $U(P_\alpha)$  アリテ  
 $U(P_\alpha) \cdot M$  ハ高々可附番、從ツテ  $W(P_\alpha) \cdot U(P_\alpha) \ni V_\alpha(P_\alpha)$   
 ナル近傍ヲ求メルコトが出来ル。カクシテ互ニ素デア内点  
 ヲ有スル集合族  $\{V_\alpha(P_\alpha)\}$  ヲ得ル、コノ集合族が可附番  
 ナラバ  $M$  ハ可分トナリ假定ニ反ス、又非可附番ナラバ  
性質3 ニ反ス、即チ  $M$  ノ凝集点ヲ有サネバナラナイ。

Q. E. D.

系1. 性質3ヲ有スル集合  $E$  が高々可附番個ヨリ凝集点ヲ有  
 セザルトキ、 $E$  ハ可分集合デアル。

系2. 性質3ヲ有スル集合  $E$  ハ可分集合ト凝集点ノ集合トニ  
 分解出来ル、即チ

$$E = C + (E - C)$$

$C = C \cap E$ , 凝集点, 集合.

$E - C$  は可分集合である。